

楽器を知ろう

チェロ

チェロはクラシック音楽で使用される弦楽器です。バイオリンからコントラバスまでの弦楽器の中では音域がコントラバスに次いで2番目に低い楽器で、オーケストラや弦楽四重奏、弦楽五重奏などでは主に低音部を受け持っています。

協奏曲やチェロソナタなど、チェロをソロ楽器として取り上げた曲が数多く作曲されています。また、ピアノやオーケストラの伴奏がない「無伴奏」のソロ曲も作曲され、中でもヨハン・ゼバスティアン・バッハの「無伴奏チェロ組曲」は大変有名な曲ではないでしょうか。

発音原理や基本的な構造はバイオリンやコントラバスとほぼ同じです。しかし、中低音を受け持つため楽器本体がバイオリンやピオラよりも大きいので、頻では自分で演奏することはせず、演奏者の前方に楽器を配置させて演奏します。

現在のチェロは、楽器下部に「エンドピン」という細い金属製の脚があり、これを床に接触させて支えています。エンドピンがあるのはコントラバスも同じですが、コントラバスが立って演奏するのに対して、チェロは座って演奏します。

時には優しい音を、時には力強い音を出す、とても表現の幅が広い楽器です。バイオリン、ピオラ、チェロ、コントラバスの4つの弦楽器を比べながら演奏を聴くのも面白いかもしれません。(県吹奏楽連盟監修)



りんごの音符

チェロの音色は人の声に近くよく言われます。私の場合、ちょうどチェロの一番低い音が、私の一番低い声ぐらいのバツリの相性です。だから私自身としてはその音域はとても親近感がわく楽器だなと思います。演奏者と楽器との距離もやっぱりこの楽器よりも近いです。心情的

チェロ

佐藤 晴真さん (愛知県出身)

を音楽で表現しやすい楽器なんじゃないかなと個人的には思っています。4歳半のとき、中木健二先生(愛知県出身のチェリスト)の演奏を聴き、チェロをやりたいと両親に懇願しました。30分にも満たない演奏だったのに、すっかり心を奪われてしまったのです。まずはバイオリンから始めて、6歳で念願のチェロに転向しました。

チェロを辞めたいと思ったことはありません。チェロに触れることが自然と生活に組み込まれていて、逆に練習しないと居心地が悪く感じになっていきます。た。それが今のチェリストという職業につながっていったのだと思います。ただ仕事とは思っていません。自分にしかないものに気づかないといけない。新しいものを表現していきたいという思いで舞台上に立っています。

クロード・ドビュッシーというフランスの作曲家がいます。人よりも自然が好きだったのではないかと思います。光や風、海など自然をモチーフにした曲が多く、自然の神秘のようなものをじかに感じさせます。音楽祭では、さまざまナドビュッシーの楽曲を演奏する予定です。「青い海と森の音楽祭」という名前が示す通り、自然豊かな青森でドビュッシーを奏でることが特別な意味を持つと思っています。本能的に聴ける、さらに言えば第五感、第六感までフルに使って楽しんでいただきたいと思います。

現在ベルリン芸術大学に在籍しながら、国内外の演奏活動で飛び回る日々を送っています。台間にと自分はずいぶん演奏するのかわからないことがあります。一つは、演奏会で自分なりの解釈を表現したいから。二つ目は、初心者の方にクラシック音楽の良さを紹介したいからです。

推しつづけるつもりはありますが、生で聴く音楽はさまざまベクトルの感動をもたらすと信じています。それは、先に述べたように、私自身が体験したこともありません。家で鳴っていた音楽に興味を示さなかった私がある日、中木先生の演奏を目の当たりにし、突き動かされるものを感じた。それは感動であったに違いないのです。「地産地消の音楽祭にしたい」という芸術監督の沖澤のどかさんの言葉に深く共感しています。沖澤さんの地元を大切にしたいという思いとともに、青森から世界に羽ばたく次世代の気持を育てていく。今まで青森と縁がありませんでしたが、これを機会に貢献できたらと思っています。もちろん、演奏以外にも青森を堪能したいです。ラーメンが好きなのでお店を巡りたい。みなさん、お薦めを教えてください！(まとも・加藤桃子) ※次回は2月16日に掲載予定です。

「生」の感動共有したい

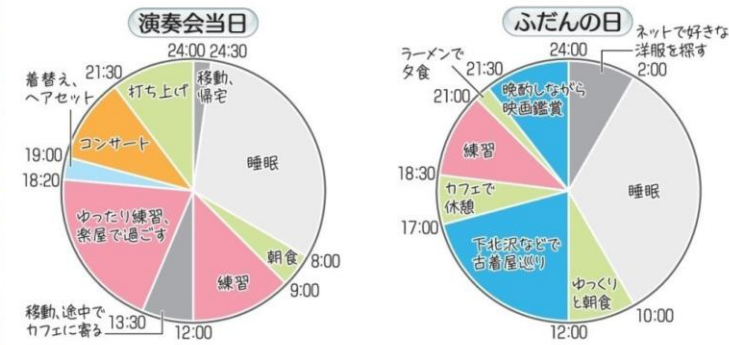


©Seichi Saito

＜さとう・はるま 1998年、愛知県名古屋市出身。2019年、ミュンヘン国際(こぐさい)音楽コンクールチェロ部門において日本人として初めて優勝(ゆうしょう)。18年にはルトスワフスキ国際チェロ・コンクール第1位および特別賞(しょう)を受賞(じゅうしょう)。第83回日本音楽コンクールチェロ部門第1位および徳永賞・黒柳賞など受賞多数。これまで国内外の主要オーケストラと共演(きょうえん)しており、リサイタル、室内楽でも好評(こうひょう)を博す。23年4月には、名門ドイツ・グラモフォンより3枚目(まいめ)のアルバムとなる『歌の翼(つばさ)に〜メンデルスゾーン作品集』をリリース>



日本人として初めて優勝したミュンヘン国際音楽コンクールのファイナルで演奏する佐藤さん ©Danielle Deiang 2019年



2025年6月30日～7月6日 県内で第1回「青い海と森の音楽祭」が開かれます